

社会科学習指導案

学習を通して培う国際理解的力

③自国認識と国民的自覚

⑤コミュニケーション能力

⑥連帯意識・協調・参画意識

学校名 釧路市立春採中学校

生徒 第2学年1組 男子16名 女子20名

授業者 教諭 佐藤 真弓

1. 単元名 結びつく世界と日本

2. 単元目標

- ・ 世界的視野から物事をみることにより、自分たちの生活のあり方に関心や問題意識を持つことができる。(意欲・関心)
- ・ 資料を多面的多角的に考察し、世界と日本のつながりについて考えることができる。
(思考・判断)
- ・ 課題解決のために必要な資料や情報を収集し、効果的にまとめることができる。(技能・表現)
- ・ 世界的視野から見て、日本は世界の各地と強く結びついていること、その結びつき方には相手の国や地域によって特色があること、また国内での結びつきにも地域的特色があることを理解する。
(知識・理解)

3. 単元について

(1) 生徒の実態

生徒たちは自分の周りの世界だけで物事を考えてしまうことが多く、他とのかかわりによって自分たちの生活があることを理解することがなかなかできていない。インターネットなどの利用が活発化し、世界の情報がすぐに目に入る環境でも、世界の諸問題については、自分の生活とは結びつかず、関心が低い。ゆえに、積極的に情報を活用し、他国や日本について広い視野でとらえていこうとする姿勢に欠ける面がある。

しかし授業に関しては真面目に取り組む生徒が多く、意見や感想を自由に言える雰囲気がある。挙手をして発言する生徒は一部で、また発言の中身としては自分の少ない経験によるものしかなく、広い視野から物事を見て、自分の意見を発言するということはできていない。

素直に吸収し学習していこうとする意欲があるので、心を揺さぶるような教材を使うと、真剣に取り組む姿勢が見られる。

(2) 教材の価値(視点1に関して)

交通、通信、貿易などの面から自分たちの生活と世界とのつながりをあらためて見ることで、自分の普段何気なく送っている生活が世界と強くつながっていることを気づかせたいと考えた。とくに貿易の面から、自分たちの食生活について取り上げ、現在日本は世界から食料を輸入しないと生活が成り立たないということ、一方でその貿易相手国では貧困や環境問題などが生じていることを理解させる。その様々な現状を理解したとき、自分たちの生活のあり方についても真剣に考えることができると考える。

(3) 指導にあたって（視点2に関して）

今回、「日本が世界から多くの食料を輸入していること」について賛成か反対かというテーマで議論を行なう授業を取り入れた。賛成派、反対派で議論しあうことにより、立場によってそれぞれの考え方があることを理解させ、その上で自分たちの生活はどうあるべきかを建設的に考えようとする姿勢を育成したいと考えた。賛成派、反対派、両者の立論から生じる葛藤が、自分たちの生活のあり方について真剣に考えようとする意欲と姿勢をもたせることができると考える。

また、賛成派、反対派、それぞれの立場に分かれて、グループで課題解決のために調べる活動を取り入れることにより、お互いに協力しあいながら積極的に授業に取り組む姿勢を育成したいと考える。

4. 指導計画

時数	学習内容	評価規準（国際理解教育にかかわって）	他領域との関連
1	地図やグラフから、交通・通信面での日本と世界各地との結びつき方の特色を読み取る。	- 日本は世界の空や海の交通網からみて、拠点のひとつになっていることを理解できる。（知識理解） - 交通、通信面で、日本との結びつきが強い国と弱い国との特色を理解できる。（知識理解）	2年技術科「情報とわたしたちの生活」
2	地図やグラフから、日本と世界との貿易の特色について読み取る。	日本は主に世界に工業製品を輸出していること、世界からは食料品や工業の原材料を多く輸入していることを理解できる。（知識理解）	
3	「世界から多くの食料を輸入していること」について賛成派・反対派に分かれ、グループをつくる。 - 立論を考える。 - 調査活動の見通しをもつ。	- それぞれの論は、根拠な明確を基にたてることができる。 - どのような反駁があるかいくつか予想できるか。自分たちの意見の正当性をいくつか考えることができる。	
4 9	- 論拠となるものを調べる。 - 相手側の反駁を予想し、反論を考える。 - 相手側の立論を予想し、反駁を考える。 - グループで情報を共通化し、役割、作戦を考える。	- 資料を活用し、予想される相手側の反駁に対して反論を考えることができる。（思考判断） - 資料を活用し、予想される相手側の立論に対して反駁を考えることができる。（思考判断） - 自分達の意見を視覚的なものを使いながら、効果的にまとめることができる。（技能・表現）	1年家庭科「よりよい食生活をめざして」
10 本時	ディベートを行う。	- 自分たちの生活のあり方について自分なりの意見を持つことができる。（関心・意欲） - 現在日本は世界から食料を輸入しないと生活が成り立たないこと、その一方で貿易相手国では貧困や環境問題などが生じていることを理解できる。（知識理解）	2年国語科「学級新聞を考える ディベート」

※ 予想される意見 ・ 輸入しないということは今の現状から難しいと思った。でも、今のように自分たちのことしか考えないで生活するのはいけないと思った。 ・ 公正な取引がされている食料や自然に優しい栽培の仕方をしている食料をなるべく輸入するべきだと思った。 ・ このまま世界から多くの食料を輸入し続けるのはよくないと思った。つくれるものは自分たちの国でつくるようにする。だから農業にもっと関心を持つ。	振りかえさせる。 ○単純に賛成、反対とならないように文章で書かせる。 ○自分の意見がディベートを通して深まったところを書くように指示する。 *日本は世界とのつながりなしには生活できないこと、その一方で貧困や環境問題などの問題が起きていることを理解しているか。 *自分たちの生活のあり方について自分なりの意見をもつことができたか。
---	---

6. 参考資料

〈参考文献〉

- ・ 「地球環境ガバナンス」 ヒラリー・フレンチ著
- ・ 「世界と地球の困った現実」 日本国際飢餓対策機構（編）
- ・ 「おかいもの ちょっと考えてみて」 ジェローム・ミニー著